

④ 拘束感

「検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された」と感じた回答者のコメントは、以下のとおりである。

表3.3-17 「検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された」

区分	コメント
脳腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ・ IR検査がいつ終わるのか解らず苦痛だった(30歳代女性) ・ やっと呼ばれて検査室に入室したのに待たされた(30歳代女性) ・ 仰向けになって検査をするのが苦だった(30歳代男性) ・ 検査から診察まで半日かかる(40歳代男性)
胃がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長く診療待ち時間がかかった。総合病院だから(20歳代女性) ・ 1つの検査だけで時間がかかった(30歳代男性) ・ 検査の時間をオーバーした(30歳代女性) ・ 具体的にどのくらいの検査になるのか、いつ診断がおりのかの事前説明がなく、まだかまだかと思って待っていた(30歳代男性) ・ 色々な検査、面接を受けた(40歳代男性) ・ 胃カメラの検査のとき(30歳代女性) ・ 普通(40歳代男性) ・ CT、MRIで息を止めること(40歳代男性) ・ いろいろな検査で移動し待たされの繰り返し(50歳代女性) ・ 胃カメラ検査で半日かかった(50歳代男性) ・ 検査時に長く同じ体制でいるのがつらい(50歳代男性) ・ されるがままでした(50歳代男性) ・ 検査患者が多かったので(60歳代女性) ・ 胃の患部組織を採取した後1時間安静にする必要があった(60歳代男性) ・ 胃カメラでがんと思われる細胞を検査のため切除する時間。どうしても長く感じる(70歳代男性) ・ 簡単に済むと言われたが10時間以上かかった(70歳代男性) ・ 実際の時間より精神的に長く感じられた(80歳代男性)
大腸がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポリプが12個あったので時間がかかった(40歳代男性) ・ 入院から死に至ることまでの最悪の事態を想定した(50歳代男性) ・ 検査は予約だから待ち時間はなかったが検査の時間はかなりかかったと感じた(60歳代男性) ・ 時間的に長いことは不安になる(60歳代男性) ・ 半日はかかった(60歳代男性) ・ 下剤を大量に飲まされてある程度苦痛を感じた(60歳代男性)
肝臓がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査室に入ってから検査の準備長時間待たされた(40歳代男性) ・ 待ち時間が長く苦痛だった(40歳代女性)
乳がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予約もしているのに朝9時20分ごろに病院で受付して診察は午後14時30分(30歳代女性) ・ 混み合っていたせいもあるが結局一日がかりだった(40歳代女性) ・ 手術前検査で、朝から飲食禁止で、検査が、夕方近くになったとき(40歳代女性) ・ 初めて検査を受けたときは、予約が取れていなかったので仕方がないが6時間くらい待たされた。でも受付の人がとてもよく説明してくれたのでそこはとても良かった(40歳代女性) ・ 待ち時間はいつも長くて大変(40歳代女性) ・ MRI検査時(30歳代女性) ・ 骨シンチやセンチネルリンパ節生検の検査が長かった(30歳代女性) ・ 3時間(50歳代女性) ・ 血管が細く針が刺さりにくいので何度も刺される(40歳代女性) ・ 骨シンチ検査。微動だにできないので辛かった(40歳代女性) ・ 上半身裸のまま診察台で待たされた(50歳代女性)
前立腺がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査が長い(60歳代男性) ・ 再度検査を受ける必要があるのかどうかの不安(60歳代男性) ・ 生検野ために1時間以上かかった(60歳代男性) ・ 諸準備が遅れ、生検するための室内で30分以上待たされ、とても不安でした(80歳代男性) ・ 長時間の待機姿勢が必要とされた(70歳代男性) ・ 骨に転移の有無検査(60歳代男性)

⑤ 日常生活の制限

「検査・診断を受けるために日常生活が制限された」と感じた回答者のコメントは、以下のとおりである。

表3.3-18 「検査・診断を受けるために日常生活が制限された」(1/4)

区 分		コメント
脳 腫 瘍	入 院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治療のため数ヶ月入院。白血球低下のため病室に缶詰状態(30歳代男性) ・ 手術で長期間入院した(30歳代女性) ・ 手術のため2週間入院した(30歳代女性) ・ 手術の事前処置のため、数日入院した(30歳代女性) ・ 1か月入院。社会復帰まで半年かかった(40歳代男性) ・ 血管造影による入院(40歳代女性) ・ 検査のため入院しなければいけなかった(40歳代男性) ・ 検査入院(40歳代男性)
	食 事 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚を多く食べる苦痛(50歳代女性)
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早めの処置を望まれたのでいろいろな始末を急がなければならなかった(30歳代女性) ・ 造影剤を使った後、1日動いてはいけなかった(40歳代女性)
胃 が ん	入院・通院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1ヶ月以上入院し、病体手続きをとらざるを得なかった(30歳代男性) ・ 手術のため2週間ほど入院した(30歳代女性) ・ 手術のため入院(30歳代女性) ・ 33日の入院(40歳代男性) ・ 63日間入院をした(40歳代男性) ・ 休職、入院(40歳代男性) ・ 検査入院した(40歳代男性) ・ 事前の検査のために、入院をしなければならなかった(40歳代女性) ・ 手術が順番待ちで早くから入院させられた(40歳代女性) ・ 手術のため約3週間入院した(40歳代男性) ・ 手術前後、約10日間入院した(40歳代男性) ・ 手術入院をした(40歳代女性) ・ 10日(50歳代男性) ・ 1週間検査のため入院(50歳代男性) ・ 2週間ほど入院した(50歳代男性) ・ 40日の入院(50歳代女性) ・ 手術のために9日入院した(50歳代男性)(60歳代男性) ・ 検査入院をいられた(50歳代男性) ・ 手術のために入院した(50歳代女性) ・ 手術後2週間の入院だった(50歳代男性) ・ 手術処置後の入院が長い(50歳代男性) ・ 手術前の検査と手術後の入院のため休まなければいけなかった(50歳代男性) ・ 手術・処置のために数日間入院したなど(50歳代男性) ・ 絶食絶食を含み3ヶ月入院した(50歳代男性) ・ 入院(50歳代男性) ・ 2週間の入院予定が、3週間に伸びた(60歳代女性) ・ 2週間入院(60歳代男性) ・ 32日間の入院をした(60歳代男性) ・ 9日間(60歳代男性) ・ 検査入院が(60歳代男性) ・ 手術のため1週間、術前の入院が必要だった(60歳代男性) ・ 手術前に1週間の入院が必要だった(60歳代男性) ・ 退院まで2週間でしたので(60歳代女性) ・ 転移があるかないか結果を早く知りたかった(60歳代男性) ・ 入院(60歳代女性) ・ 入院期間の長さ(60歳代男性) ・ 約2ヶ月入院した(60歳代女性) ・ 2週間(70歳代男性) ・ 4日間入院(70歳代男性) ・ 検査、手術のため40日間入院した(70歳代男性) ・ 手術のため数日間入院し、しばらく絶食しなければならなかった。又その栄養補給のための点滴が昼夜連続でされた(70歳代男性) ・ 手術前の検査で3日間入院した(70歳代男性) ・ 検出範囲確認、手術前種々検査のため3日程入院した(70歳代男性) ・ 検査と手術前に入院した(80歳代男性) ・ 手術・処置のために1週間ほど入院した(80歳代男性) ・ 通院による(30歳代男性)

表3.3-19 「検査・診断を受けるために日常生活が制限された」(2/4)

区 分	コメント	
胃 が ん	食 事 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水が飲めなかった(20 歳代女性) ・ 検査のために食事抜き(40 歳代男性) ・ 術後食事をとるようになってから便秘が続いて改善されず辛かった(60 歳代男性) ・ 食事制限(60 歳代男性) ・ 食事制限。終わるまでそこにあるのに食べられない(60 歳代男性) ・ 糖尿病で手術が伸びた(食事制限)(70 歳代男性)
	仕 事 へ の 支 障	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事の事が気になった(40 歳代男性) ・ 仕事の遅滞(40 歳代男性) ・ 入院後検査に1週間かかり、自営業のために仕事に支障をきたした(50 歳代男性) ・ 派遣社員のため、仕事を休むと収入が減る(50 歳代女性)
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活に戻るのに時間がかかった(30 歳代男性) ・ 手術のため長期休暇が必要であった(40 歳代男性) ・ がんを宣告されたわけですから誰でもあるのではないのでしょうか(50 歳代男性) ・ 大学病院でどうしても遅くなりがちだった(50 歳代男性) ・ 精神的苦痛を感じた(70 歳代男性)
大 腸 が ん	入 院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 日間入院した(30 歳代女性) ・ 手術で3週間入院した(40 歳代男性) ・ 手術のために2週間入院した(40 歳代男性) ・ 3週間入院(50 歳代男性) ・ 検査が長引き手術までに日数がかかり、入院日数が長くなった(50 歳代女性) ・ 検査の段階で手術に切り替わり急遽入院となった(50 歳代女性) ・ 検査入院で4日必要だった(50 歳代男性) ・ 手術・処置のための入院(50 歳代女性) ・ 手術のため数日間入院した(50 歳代男性) ・ アバスチン投与のため1週間入院した(60 歳代男性) ・ 診断を受けて即検査入院して数日後に手術し25 日間制限された(60 歳代男性) ・ 長期の入院(60 歳代男性)
	食 事 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絶食や下剤を飲んでの検査処置(40 歳代男性) ・ 食事(50 歳代女性) ・ 食事制限と腸内の洗浄(50 歳代男性) ・ 検査前に食事制限があった(60 歳代男性) ・ 絶飲、絶食(60 歳代男性)
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身柄拘束(70 歳代男性)
肝 臓 が ん	入 院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1~2ヶ月の入院でいつ退院できるか見通しがたっていなかった(40 歳代男性) ・ 検査入院があった(40 歳代男性) ・ 2週間入院1週間自宅療養(50 歳代男性) ・ 医者の都合・日程次第で検査、入院、手術の日程が決まってしまう患者主体でない(50 歳代男性) ・ 肝臓に直接造影剤を血管に管を通して流し込む検査入院をしらなかなが検査の日が決まらなくて1週間ちょっと入院しなければいけないので困った(50 歳代女性) ・ 30 日間の入院生活は長かった(60 歳代男性) ・ 既に緊急入院中で病院生活での不自由さ(60 歳代男性) ・ 手術&入院(60 歳代男性) ・ 手術のため3日間入院した(70 歳代男性)
	検 査	<ul style="list-style-type: none"> ・ カテーテルのため半日は下半身を動かすことができなかった(40 歳代女性) ・ CT、MRI、エコー等検査回数が多い(50 歳代男性) ・ 検査だけに2週間もかかった(60 歳代男性)
	手 術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食道静脈瘤切除、冠動脈塞栓術、ラジオ焼灼術など7回(60 歳代男性) ・ 診断から手術の日数が長い30 日以上(70 歳代男性)

表3.3-20 「検査・診断を受けるために日常生活が制限された」(3/4)

区 分	コメント
乳 がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10日以上入院して何もできず病院では暇で仕方なかった(30歳代女性) ・ 手術、入院もしたし、通院での待ち時間が長かった(30歳代女性) ・ 手術のため1週間以上入院した(30歳代女性) ・ 手術入院(30歳代女性) ・ 3週間入院した(40歳代女性) ・ これは、しょうがないが、早く家に帰りたい(40歳代女性) ・ 右乳房切除のために1週間入院しました(40歳代女性) ・ 希望の手術をしてくれる病院が遠かったため、普通の診察も1日がかりだったし、当然手術も12日間入院した(40歳代女性) ・ 検査入院、手術などで入院し普段の生活サイクルと時間が違うのでストレスを感じた(40歳代女性) ・ 持病があるため通常より長く入院しなければならなかった(40歳代女性) ・ 手術、検査などでの入院(40歳代女性) ・ 手術で5日間の入院(40歳代女性) ・ 手術のための入院は14日間だったので制限を受けた(40歳代女性) ・ 手術のため入院した(40歳代女性)(60歳代女性) ・ 手術後なかなか退院できず、1ヶ月ほど入院したこと(40歳代女性) ・ 初回の抗がん剤で入院。その他手術で入院。抗がん剤副作用で点滴処置など、著しく日常生活に影響があった(40歳代女性) ・ 入院・通院(40歳代女性) ・ 入院中も4人部屋でうるさくて眠れなかった(40歳代女性) ・ 10日入院(50歳代女性) ・ 手術で入院、通院も待ち時間が長い(50歳代女性) ・ 消毒や抜糸を外来でということだったが、そんな傷を抱えて何かあるといやなので入院を継続した(50歳代女性) ・ 入院期間が予定より長かった(50歳代女性) ・ 入院や放射線の通院(60歳代女性) ・ 部分切除のため手術をし、数日間消毒に通わなければならなかった(30歳代女性) ・ たび重なる採血、検査のため、殆ど病院に通うことのみが生活となってしまった(40歳代女性) ・ 検査が1日にまとめて行われたのではないので、何回も通院しなければならなかった(40歳代女性) ・ 手術・入院は決まった日数なのでそれほど問題はなかったが、その後の放射線治療が毎日決まった時間に行かなければならなかったこと、また、それが5週間も続いたこと(40歳代女性) ・ 少し遠方の病院なので通うのが大変(40歳代女性)
手 術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全部摘出・乳房再建のため、退院後もかなり背中が痛みがあり日常生活も大変でした(30歳代女性) ・ 手術(50歳代女性)
仕 事 へ の 支 障	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会社を休むことへの不安(30歳代女性) ・ 仕事を休まなければならず職場に迷惑をかけた。有給休暇がなくなってしまう、他の休みが取れなかった(30歳代女性) ・ 手術、術後診察のために会社を休んだ(30歳代女性) ・ しかたないことだが、検査、入院、手術で仕事を休まなければならなかった(40歳代女性) ・ 待ち時間が長くて仕事に遅れた(50歳代女性)
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べるものを制限(30歳代女性) ・ 検査、治療、手術と病院は平日しか診察がないので日常生活は明らかに制限されます(30歳代女性) ・ 手術も全部受けた(30歳代女性) ・ タバコをやめるように言われた(40歳代女性) ・ 子供の幼稚園等の行事にいけなかった(40歳代女性) ・ 子供無しで夫婦だけの生活なので、家事一切がストップする事になり夫にも負担がかかったし、夫は全部をこなせないで、退院したらたまった家事等一切が一気に降りかかった状態だった。他にもいろいろな手続きや処理などで、術後だと言うのに忙しかった(40歳代女性) ・ 病院を変えたり、そのために2回手術が必要になった(50歳代女性) ・ すべてに時間がかかり1日仕事になる(60歳代女性)

表3.3-21 「検査・診断を受けるために日常生活が制限された」(4/4)

区分	コメント
前立腺がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査入院が必要だった(50 歳代男性) ・ 生検のため、3泊4日入院した(50 歳代男性) ・ 14 日間入院し手術を受けた(60 歳代男性) ・ がんの確認で精密検査を受けたとき1泊2日(60 歳代男性) ・ 検査入院3日(2回)摘出手術入院3週間(60 歳代男性) ・ 検査入院した(60 歳代男性) ・ 手術で21 日間入院した(60 歳代男性) ・ 手術で3日間入院(60 歳代男性) ・ 数日間入院(60 歳代男性) ・ 生体検査及び摘出手術による入院(60 歳代男性) ・ 生体検査検査で入院した、事後出血が止まらず翌日まで入院(60 歳代男性) ・ 入院した(60 歳代男性) ・ 入院して、前立腺から検査用生体を抽出(60 歳代男性) ・ 1週間の検査入院(70 歳代男性) ・ 3日間の入院。放射線治療 38 日(70 歳代男性) ・ 3日間の入院(70 歳代男性) ・ ガン告知、入院、手術、30 日(70 歳代男性) ・ 検査で3日間入院した(70 歳代男性) ・ 手術に3日入院、通院時予約制にもかかわらず待たされた(70 歳代男性) ・ 小線源に3日間入院、その後外放射で6週間通院(70 歳代男性) ・ 触診検査後に日を改めて細胞検査のため5日間入院(70 歳代男性) ・ 短期間ではあるが入院した(70 歳代男性)
検査・手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査のため数日間会社を休んだ(60 歳代男性) ・ 検査回数、予約に時間を要した(60 歳代男性) ・ 手術をした(60 歳代男性) ・ 放射線照射が 35 日つづいたので(70 歳代男性)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 術後、排尿がなかなか通常に戻らなかった(40 歳代男性) ・ 痛かった(50 歳代男性)

⑥ 経済的負担

「検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった」と感じた回答者のコメントは、以下のとおりである。

表3.3-22 「検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった（1/2）」

区分	コメント
脳腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ・手術により計200万円ほどかかり通院にも100万円ほどかかった(30歳代女性) ・内科での検査代と同じ感覚でいたので、脳外科の場合は高かった(30歳代男性) ・100万円の出費(40歳代男性) ・金額がどれくらいか想像もつかなかった(40歳代女性) ・手術代が高かった(40歳代男性)
胃がん	<ul style="list-style-type: none"> ・麻酔を使ったので(20歳代女性) ・びっくり(30歳代男性) ・初めてのことで、予想もつかなかったが、目が飛び出たのが本音だった(30歳代男性) ・費用が高かった(30歳代女性) ・CT検査は特に想定以上に費用がかかった(40歳代男性) ・一連の検査を病院が変わるごとに再検査し高かった(40歳代男性) ・高額医療費の還付金の所得制限(40歳代男性) ・いろいろな検査費用・入院費・手術費(50歳代女性) ・検査項目が多く費用がかさむ、仕方ないが…(50歳代男性) ・検査料が思っていたより高かった(50歳代男性) ・高額(50歳代男性) ・捻出が大変だった(50歳代女性) ・保険に入っていたので助かりました、個人では無理(50歳代男性) ・保険適用でも万円になる(50歳代男性) ・1.5倍ぐらい(60歳代男性) ・保険でカバーできない。いくらぐらいかかるか事前にわからない(60歳代男性) ・25万円(70歳代男性) ・大部屋を希望したのに個室になった(70歳代男性)
大腸がん	<ul style="list-style-type: none"> ・セカンドオピニオンなどしたため(30歳代女性) ・抗がん剤の治療費がすごく高かった(40歳代男性) ・入院とか検査費用が思ったより高かった(50歳代男性) ・1泊の入院含めて4万円強(60歳代男性) ・抗がん剤が高い(60歳代男性)
肝臓がん	<ul style="list-style-type: none"> ・保険適用外の治療も受けたため(40歳代女性) ・必要以上に入院することになったから(50歳代女性) ・医療改正で非常に検査費用が高くなった(60歳代男性) ・がんとは想定していないでの緊急入院であったから高く感じた(60歳代男性)

表3.3-23 「検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった（2/2）」

区分	コメント
乳がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回の検査に数万円もかかったこともあった(30歳代女性) ・ CTが高かった(30歳代女性) ・ MRIの費用が高かった(30歳代女性) ・ がんを取りきれず何度が再手術があったので、検査も2度やったり無駄が多い。保険計算を間違われたことも何度もある(30歳代女性) ・ 検査は保険がきかない(30歳代女性) ・ 診断までの検査料も、手術後の抗がん剤なども高額で経済的に厳しい(30歳代女性) ・ 総額かなりの金額した(30歳代女性) ・ 乳がんを触れた時から約半年に3桁のお金をつかいました。でもお金は使いましたが、今は幸せです(30歳代女性) ・ がん治療にかかる費用が高すぎると思う(40歳代女性) ・ その後の抗がん剤の費用がとて高くなりの負担だった(40歳代女性) ・ ホルモン注射(40歳代女性) ・ ホルモン療法の注射や薬代が思ったより高額で大変だ(40歳代女性) ・ 何ヶ月も経ってから、過日の検査費用として高額な費用を請求された。事前に説明はなかった(40歳代女性) ・ 画像診断が高かった(40歳代女性) ・ 去年から同じ検査でも費用が上がったと感じた(40歳代女性) ・ 検査にも料金が高い(40歳代女性) ・ 検査機関での結果を持参したが、同じ検査を受けさせられたため、倍の費用がかかった(40歳代女性) ・ 抗がん剤は、3週毎に通院点滴を受けるが、その度費用は5万円～8万円。普通の家計ではやっていけず、苦しかった(40歳代女性) ・ 骨シンチなどは、保険適用でもかなり高いと感じた(40歳代女性) ・ 今までたいした病気をしてないので(40歳代女性) ・ 同時に血液検査もあったので、思ったより費用が高かったこと(40歳代女性) ・ 独身時代に貯めていたお金が無かったら払えなかった(40歳代女性) ・ 必要なで仕方ないですが、今後どれくらいかかるのかわからず…(40歳代女性) ・ 病院が遠かったため、交通費が非常にかかった(40歳代女性) ・ 毎回数千円から万単位で費用がかかる(40歳代女性) ・ CT、MRI、骨シンチは高い(50歳代女性) ・ ベッド代(50歳代女性) ・ マンモグラフィ(50歳代女性) ・ マンモグラフィ、血液検査、細胞検査等(50歳代女性) ・ 骨シンチとMRIとCT検査を1度にしたため、支払いが多くなった(50歳代女性) ・ 骨シンチの検査料。紹介で転院した際、検査資料を預かって渡したが、再度同じ検査を受けさせられたため、二重の出費となった(50歳代女性) ・ 骨シンチ検査(50歳代女性) ・ 今でも検査に2～3万円(半年に1回)かかる(50歳代女性) ・ 色々な検査費用が高かった(50歳代女性)
前立腺がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30万円くらいと思っていたが45万円かかった(60歳代男性) ・ 3割負担でも薬、注射が高く感じた(60歳代男性) ・ 数万かかった(60歳代男性) ・ 費用が高いと感じた(60歳代男性) ・ 保険が適応されても、想定していた額より高かった(60歳代男性) ・ 検査費用だけで約7万円の保険負担(70歳代男性) ・ 種々の精密検査を必要としたため(70歳代男性) ・ 入院費用があるのだから検査代より高くなる(70歳代男性)

⑦ 説明不足

「検査・診断について、医師の説明が不十分だった」と感じた回答者のコメントは、以下のとおりである。

表3.3-24 「検査・診断について、医師の説明が不十分だった」

区分	コメント
脳腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門用語が多いのでわかりづらい(40歳代男性) ・ 説明が少なめ(50歳代女性)
胃がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行ったらすぐに胃カメラだった(20歳代女性) ・ 病状と死ぬかもしれないと言うこと以外の説明を、難しい言葉ばかり並べてよく理解できなかった(30歳代男性) ・ どのような状態なのか(40歳代男性) ・ 検査の医師と手術する医師の連絡不足(50歳代男性) ・ 電子カルテにいろいろ書かれているがイコールに…(50歳代男性) ・ 簡単にMRE手術で取り除けるとの事だけだった(60歳代男性) ・ 検査するだけの説明で、見学などや検査内容の具体的説明がなかった(60歳代男性) ・ 質問への回答が省略され過ぎていてその都度理解しにくかった(60歳代男性) ・ 問題ありませんでしたので終わり。どこまで検査したか・何が問題ないのか聞きたいが、聞きづらい(60歳代男性) ・ 病状、検査結果、手術方法について充分理解できなかった(70歳代男性)
大腸がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ リンパ節とは何か、説明はなかったので自分で勉強した(50歳代男性) ・ 以前より受診していたのに大腸がんを発見できなかった(50歳代男性) ・ 最初の診断結果が強く、別の病院の診断結果に影響した(60歳代男性)
肝臓がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肝臓に腫瘍ができていても毎日元気に暮らしていたのでピンと来ないせいばかり難かった(50歳代女性)
乳がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ リンパの切除のこと、聞いていなかった(40歳代女性) ・ 抗がん剤の副作用については説明不十分だったと思う(40歳代女性) ・ 術後、がんがどういう状態だったのか、また、術後の乳房の状態が普通の治療過程なのかどうか、データは示してくれるが、精神的に安心できる説明のしかたをして欲しかった(40歳代女性) ・ 術前化学療法があることを知らせなかった(40歳代女性) ・ 詳しく突っ込んで聞こうとすると不機嫌になるので、顔色を伺いながら接するしかなかった(40歳代女性) ・ 一度目の病院が最低の説明だった(50歳代女性) ・ 全摘しなくて良かったのに全部摘出してしまい、セカンドオピニオンも受けるとか細かい話しなどしてくれれば良かった(50歳代女性)
前立腺がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治療方法の選択肢が少なく、摘出手術を強く勧められた(60歳代男性) ・ 先生が忙しいので時間的余裕がなくおり一片の説明(60歳代男性) ・ 全摘出にこだわり、放射線についての知識不足(60歳代男性) ・ 非常に事務的で簡単な説明(60歳代男性) ・ 部位の説明があやふやで心もとなかった(60歳代男性) ・ 今後の見込みについて詳細説明不足を感じた(70歳代男性)

⑧ 医療スタッフの接遇・態度

「検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった」と感じた回答者のコメントは、以下のとおりである。

表3.3-25 「検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった」

区分	コメント
脳腫瘍	・ 女医に説明を録音してほしいとお願いすると医療事故の対象と間違われるといわれ断られた(30歳代女性)
胃がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大半のスタッフはいいが、数名は「はあ」とため息をついたりするなど、腹が立った(30歳代男性) ・ 針をさし薬剤を注入した直後から痛かったのに、逆流があるから大丈夫、と言われ、腫れてきたらこちらが動かしたせいと言われた。点滴や注射を外されたのは、後にも先にもこのときだけ(40歳代女性) ・ 腹部超音波検査時に塗るジェルが熱くなっていて、思わず熱い！と口から出た。その後不機嫌そうとかぶつきらばうな感じの態度になった。でも調べるべき事はきちんと見てどこそこに違和感はないか？など聞くべき事はきちんと聞いてくれたので内容自体には不安はなかった(40歳代女性) ・ すべてに思いやりがかけられる(50歳代男性) ・ 肝心の手術前の説明、手術後の対応が不親切であった(60歳代男性) ・ 再度検査を受ける必要があるのかどうかの不安(60歳代男性)
大腸がん	・ 研修医に代行させる説明がなかった(70歳代男性)
肝臓がん	—
乳がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術後涙が耳に入って耳が痛くなったが耳鼻科に行けとあしらわれた(30歳代女性) ・ リンパの切除で、筋肉に触って、手が動かなくなったのに、自己保身にはしていた。外科では、何も説明してくれなかった。他の検査を、内科でしたときのCT検査の後に、内科の医師が、ボロッといったのが、失敗って言葉…リハビリの医師も「誰だこの手術したのは」って言って、担当の名前を読んでいた。すべてが嫌だった(40歳代女性) ・ 点滴や注射が下手な人(40歳代女性) ・ 見下している感じの看護師がいる。例えば「うん」と返事をする等(50歳代女性) ・ 言葉が乱暴で不安が広がった(50歳代女性) ・ 冷たかった(50歳代女性)
前立腺がん	・ 自分で治療法を決定するのだが、説明が不十分で患者自身で調べた(60歳代男性)

⑨ その他の不安・不快

「その他の不安・不快」を感じた回答者のコメントは、以下のとおりである。

表3.3-26 その他の不安・不快

区分	コメント
脳腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頭痛、腕の痛み(40 歳代男性) ・ 最悪は死ぬか植物人間か障害が残ると言われて自殺したくなった(50 歳代女性)
胃がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胃カメラ検査の際、痛み止めの薬を54分間口の中に入れてはならない。それが2回あった(50 歳代男性) ・ 何度も受け経験があり多少慣れてはいるが、検査は苦しいし、術前術後の検査のため受ける回数が増えた(50 歳代女性) ・ カメラがのどを通りにくい。腸に液体や空気が入る不快感(50 歳代男性) ・ 生まれて初めての内視鏡検査だったので、慣れなくて、おえっとなった(50 歳代女性) ・ 今現在1年毎にカメラを飲んでいますが、3年毎とか間隔が開かないものですかね(70 歳代男性)
大腸がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろんな事を考えすぎて(40 歳代男性) ・ 治療費が思ったとおり高かった(50 歳代男性) ・ 人間ドックで腸の内視鏡検査を言われたときからがんであればいいなという心配、不安があって検査の最中に医者の様子からがんらしいと感じてとても不安になった(60 歳代男性) ・ 研修医がなれないため、いつも20分以内で終わるのが45分もかかった(70 歳代男性)
肝臓がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結局は担当医に聞いてくださいというのだが、次回の診察日まで長い不安を抱えることになる(50 歳代女性) ・ 女性の放射線技師が術前の準備中患者の毛髪をドクハラした(60 歳代男性)
乳がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中は遊びに来た人としやべっているし寝ている時は寝言でうるさい(30 歳代女性) ・ これからどのように病氣と付き合っていくかとても不安だった(40 歳代女性) ・ まさかという気持ちがあつて、自分の気持ちを立て直すのに苦労した(40 歳代女性) ・ がんというすぐに死んでしまうイメージがあったから(40 歳代女性) ・ 血管が触りにくいため何度も針を刺され直される。2度失敗したら交代しますと張り紙が貼ってあるが、実際「もう一度いいでしょうか？」と言われたら嫌でも断れない(40 歳代女性) ・ 最寄に希望の処置手術をしてくれる病院がなかったし、術後の放射線治療を最寄のがんセンターで受けたかったが、数週間待ちで選択できなかった。何かあったときに最寄に病院がないのが心配(40 歳代女性) ・ 切除しなくてもがんはきえるのか？(40 歳代女性) ・ 判断に時間(日にち)がかかった(40 歳代女性) ・ やはり命に関わる病氣なので、そのことが心配だった(60 歳代女性) ・ その男の先生は、どうもワザとのぞくために入ってきたようだった(40 歳代女性) ・ 結果が出るまでの期間が長く不安(40 歳代女性) ・ 骨シンチ検査は15,000円程度だと思ったが2万円請求された(40 歳代女性) ・ 詳しく説明をうけていない(50 歳代女性)
前立腺がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術後転移の心配(70 歳代男性)

(4) 手術・処置

1) 手術・処置の種類

回答者が受けた手術・処置の種類は、以下のとおりである。

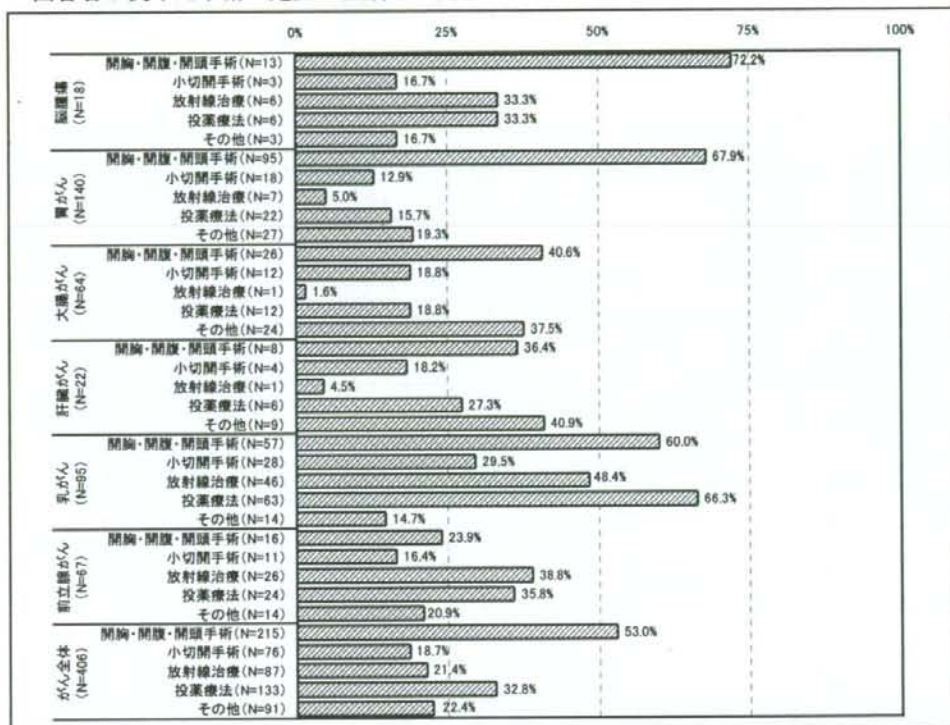


図3.3-7 手術・処置の種類 (複数回答)

表3.3-27 手術・処置の種類 (複数回答)

疾患名	開胸・開腹・開頭手術 (大きな傷の手術)	小切開手術 (小さな傷の手術)	放射線治療 (リニアック、小線源治療等)	投薬療法 (化学療法を含む)	その他の手術・処置
脳腫瘍 (N=18)	72.2%	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%
	13	3	6	6	3
胃がん (N=140)	67.9%	12.9%	5.0%	15.7%	19.3%
	95	18	7	22	27
大腸がん (N=64)	40.6%	18.8%	1.6%	18.8%	37.5%
	26	12	1	12	24
肝臓がん (N=22)	36.4%	18.2%	4.5%	27.3%	40.9%
	8	4	1	6	9
乳がん (N=95)	60.0%	29.5%	48.4%	66.3%	14.7%
	57	28	46	63	14
前立腺がん (N=67)	23.9%	16.4%	38.8%	35.8%	20.9%
	16	11	26	24	14
がん全体 (N=406)	53.0%	18.7%	21.4%	32.8%	22.4%
	215	76	87	133	91

表3.3-28 「その他の手術・処置」の内容

区分	コメント
脳腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ・再発してガンマーナイフの処置を受けた ・手術等の治療は行っていない。経過観察中 ・動脈にカテーテルで直接抗がん剤を注入する処置をした
胃がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ESD ・ファイバー手術 ・胃カメラによる熱ワイヤ ・胃カメラ方式での幹部摘出 ・内視鏡手術 ・内視鏡胃粘膜剥離治療 ・内視鏡による粘膜切除術 ・腹腔鏡手術で胃を1/3ほど切除するのが望ましいけれど、体力が無いので（4年前に幹細胞移植を受けた）今回は内視鏡による切除手術 ・EMRの失敗で、胃を切るとの事で、別の病院に行く
大腸がん	<ul style="list-style-type: none"> ・クリップ ・こうくうきょうによる手術 ・開腹しS字状結腸を全摘出手術を受けた ・大腸ファイバー（傷は無し） ・腸内での挿入器具での切除 ・内視鏡手術 ・内視鏡でのグリップでの除去 ・肛門から内視鏡を入れられ、その先に付いている器具で電氣的に切除される手術を受けた
肝臓がん	<ul style="list-style-type: none"> ・カテーテル塞栓術 ・ラジオ波治療 ・ラジオ波焼灼療法 ・ラジオ波による腫瘍焼却術 ・血管造影による抗がん剤の注入 ・抗がん剤の動脈塞栓術 ・塞栓術 ・足の付け根の血管から管を通して肝臓に造影剤を流し込んで腫瘍を詳しく調べる手術
乳がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ波焼却 ・右乳房を全摘しました ・温存→全摘出 ・温存手術 ・化学療法をサポートティブケア（G-CSF注射など） ・外来にてホルモン注射 ・胸の病巣部のみを取り除く手術。傷は15センチぐらい ・左胸温存手術 ・乳癌の温存手術で10cm位の切開 ・乳房の部分切除 ・乳房温存 ・乳房全摘 ・乳房同時再建 ・臍胸
前立腺がん	<ul style="list-style-type: none"> ・HIFUによる手術 ・えいん式手術を受けた ・がん細胞かどうかの検査のための細胞採取 ・ホルモン療法を受けている ・ホルモン注射 ・マイクロ波による高温治療 ・内視鏡による経尿道切除術 ・細胞検査のみ ・小線源埋め込み、外放射 ・生検 ・抗がん剤投与 ・生研検査 ・腹腔鏡手術 ・粒子線照射

2) 回答者の通院状況

手術・処置の種類別にみた回答者の通院状況は、以下のとおりであった。

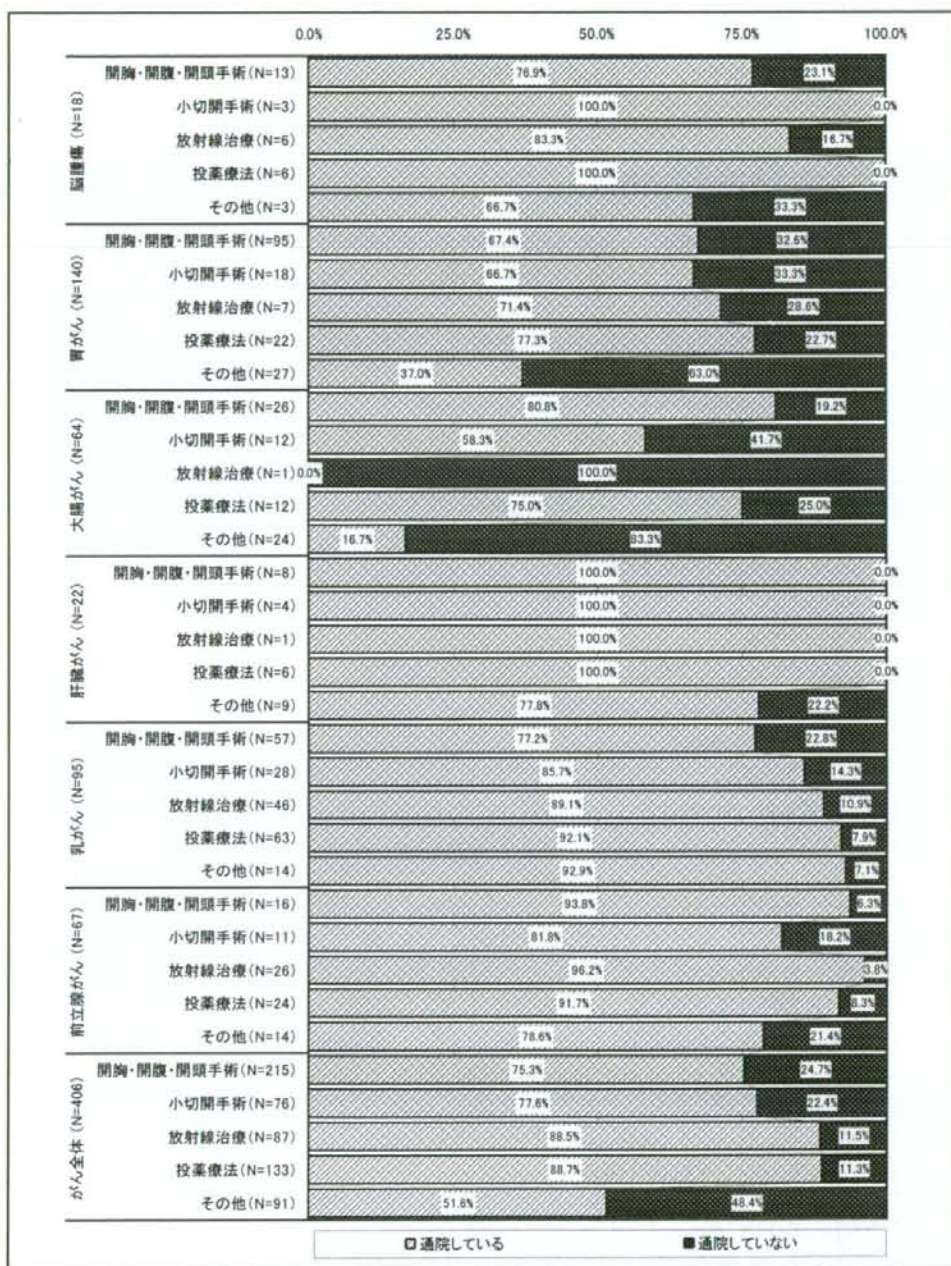


図3.3-8 手術・処置の種類別にみた通院状況

表3.3-29 手術・処置の種類別にみた通院状況

疾患名	手術・処置	現在治療のために 通院している		現在治療のために 通院していない	
		件数	割合	件数	割合
脳腫瘍 (N=18)	開胸・開腹・開頭手術 (N=13)	10	76.9%	3	23.1%
	小切開手術 (N=3)	3	100.0%	0	0.0%
	放射線治療 (N=6)	5	83.3%	1	16.7%
	投薬療法 (N=6)	6	100.0%	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=3)	2	66.7%	1	33.3%
胃がん (N=140)	開胸・開腹・開頭手術 (N=95)	64	67.4%	31	32.6%
	小切開手術 (N=18)	12	66.7%	6	33.3%
	放射線治療 (N=7)	5	71.4%	2	28.6%
	投薬療法 (N=22)	17	77.3%	5	22.7%
	その他の手術・処置 (N=27)	10	37.0%	17	63.0%
大腸がん (N=64)	開胸・開腹・開頭手術 (N=26)	21	80.8%	5	19.2%
	小切開手術 (N=12)	7	58.3%	5	41.7%
	放射線治療 (N=1)	0	0.0%	1	100.0%
	投薬療法 (N=12)	9	75.0%	3	25.0%
	その他の手術・処置 (N=24)	4	16.7%	20	83.3%
肝臓がん (N=22)	開胸・開腹・開頭手術 (N=8)	8	100.0%	0	0.0%
	小切開手術 (N=4)	4	100.0%	0	0.0%
	放射線治療 (N=1)	1	100.0%	0	0.0%
	投薬療法 (N=6)	6	100.0%	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=9)	7	77.8%	2	22.2%
乳がん (N=95)	開胸・開腹・開頭手術 (N=57)	44	77.2%	13	22.8%
	小切開手術 (N=28)	24	85.7%	4	14.3%
	放射線治療 (N=46)	41	89.1%	5	10.9%
	投薬療法 (N=63)	58	92.1%	5	7.9%
	その他の手術・処置 (N=14)	13	92.9%	1	7.1%
前立腺がん (N=67)	開胸・開腹・開頭手術 (N=16)	15	93.8%	1	6.3%
	小切開手術 (N=11)	9	81.8%	2	18.2%
	放射線治療 (N=26)	25	96.2%	1	3.8%
	投薬療法 (N=24)	22	91.7%	2	8.3%
	その他の手術・処置 (N=14)	11	78.6%	3	21.4%
がん全体 (N=406)	開胸・開腹・開頭手術 (N=215)	162	75.3%	53	24.7%
	小切開手術 (N=76)	59	77.6%	17	22.4%
	放射線治療 (N=87)	77	88.5%	10	11.5%
	投薬療法 (N=133)	118	88.7%	15	11.3%
	その他の手術・処置 (N=91)	47	51.6%	44	48.4%

3) 手術・処置時の不安・不快

「手術・処置時に不安・不快を感じた」回答者の割合は、以下のとおりであった。

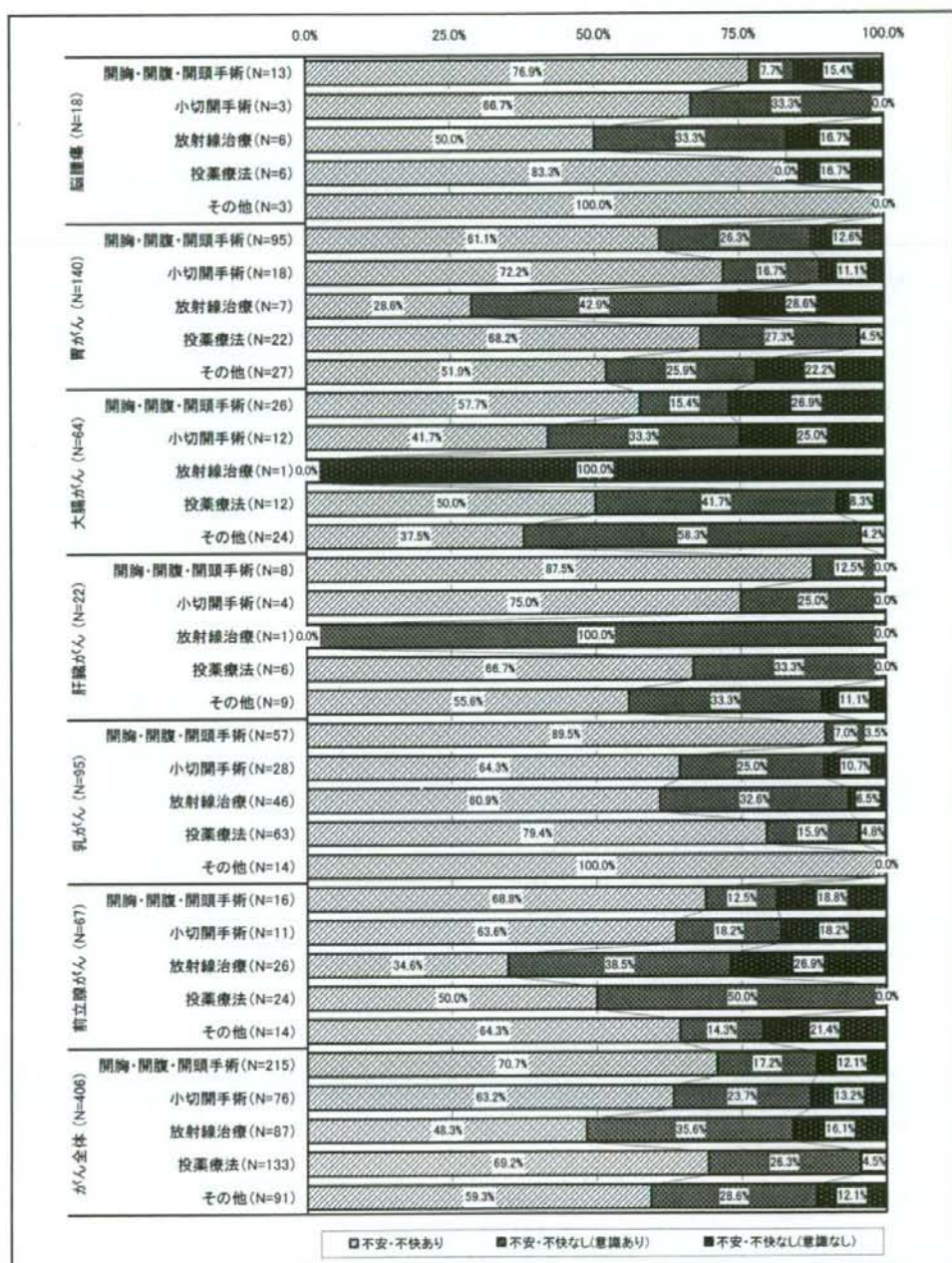


図3.3-9 手術・処置時に不安・不快を感じた割合

表3.3-30 手術・処置時に不安・不快を感じた割合

疾患名	手術・処置	不安・不快などを感じた		不安・不快などを感じなかった			
				意識はあった		意識はなかった	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
脳腫瘍 (N=18)	開胸・開腹・開頭手術 (N=13)	10	76.9%	1	7.7%	2	15.4%
	小切開手術 (N=3)	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%
	放射線治療 (N=6)	3	50.0%	2	33.3%	1	16.7%
	投薬療法 (N=6)	5	83.3%	0	0.0%	1	16.7%
	その他の手術・処置 (N=3)	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
胃がん (N=140)	開胸・開腹・開頭手術 (N=95)	58	61.1%	25	26.3%	12	12.6%
	小切開手術 (N=18)	13	72.2%	3	16.7%	2	11.1%
	放射線治療 (N=7)	2	28.6%	3	42.9%	2	28.6%
	投薬療法 (N=22)	15	68.2%	6	27.3%	1	4.5%
	その他の手術・処置 (N=27)	14	51.9%	7	25.9%	6	22.2%
大腸がん (N=64)	開胸・開腹・開頭手術 (N=26)	15	57.7%	4	15.4%	7	26.9%
	小切開手術 (N=12)	5	41.7%	4	33.3%	3	25.0%
	放射線治療 (N=1)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
	投薬療法 (N=12)	6	50.0%	5	41.7%	1	8.3%
	その他の手術・処置 (N=24)	9	37.5%	14	58.3%	1	4.2%
肝臓がん (N=22)	開胸・開腹・開頭手術 (N=8)	7	87.5%	1	12.5%	0	0.0%
	小切開手術 (N=4)	3	75.0%	1	25.0%	0	0.0%
	放射線治療 (N=1)	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%
	投薬療法 (N=6)	4	66.7%	2	33.3%	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=9)	5	55.6%	3	33.3%	1	11.1%
乳がん (N=95)	開胸・開腹・開頭手術 (N=57)	51	89.5%	4	7.0%	2	3.5%
	小切開手術 (N=28)	18	64.3%	7	25.0%	3	10.7%
	放射線治療 (N=46)	28	60.9%	15	32.6%	3	6.5%
	投薬療法 (N=63)	50	79.4%	10	15.9%	3	4.8%
	その他の手術・処置 (N=14)	14	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
前立腺がん (N=67)	開胸・開腹・開頭手術 (N=16)	11	68.8%	2	12.5%	3	18.8%
	小切開手術 (N=11)	7	63.6%	2	18.2%	2	18.2%
	放射線治療 (N=26)	9	34.6%	10	38.5%	7	26.9%
	投薬療法 (N=24)	12	50.0%	12	50.0%	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=14)	9	64.3%	2	14.3%	3	21.4%
がん全体 (N=406)	開胸・開腹・開頭手術 (N=215)	152	70.7%	37	17.2%	26	12.1%
	小切開手術 (N=76)	48	63.2%	18	23.7%	10	13.2%
	放射線治療 (N=87)	42	48.3%	31	35.6%	14	16.1%
	投薬療法 (N=133)	92	69.2%	35	26.3%	6	4.5%
	その他の手術・処置 (N=91)	54	59.3%	26	28.6%	11	12.1%

4) 手術・処置時の不安・不快の内容

① 「手術・処置後、病状が改善しなかった」

「手術・処置後、病状が改善しなかった」回答者の割合は、以下のとおりである。

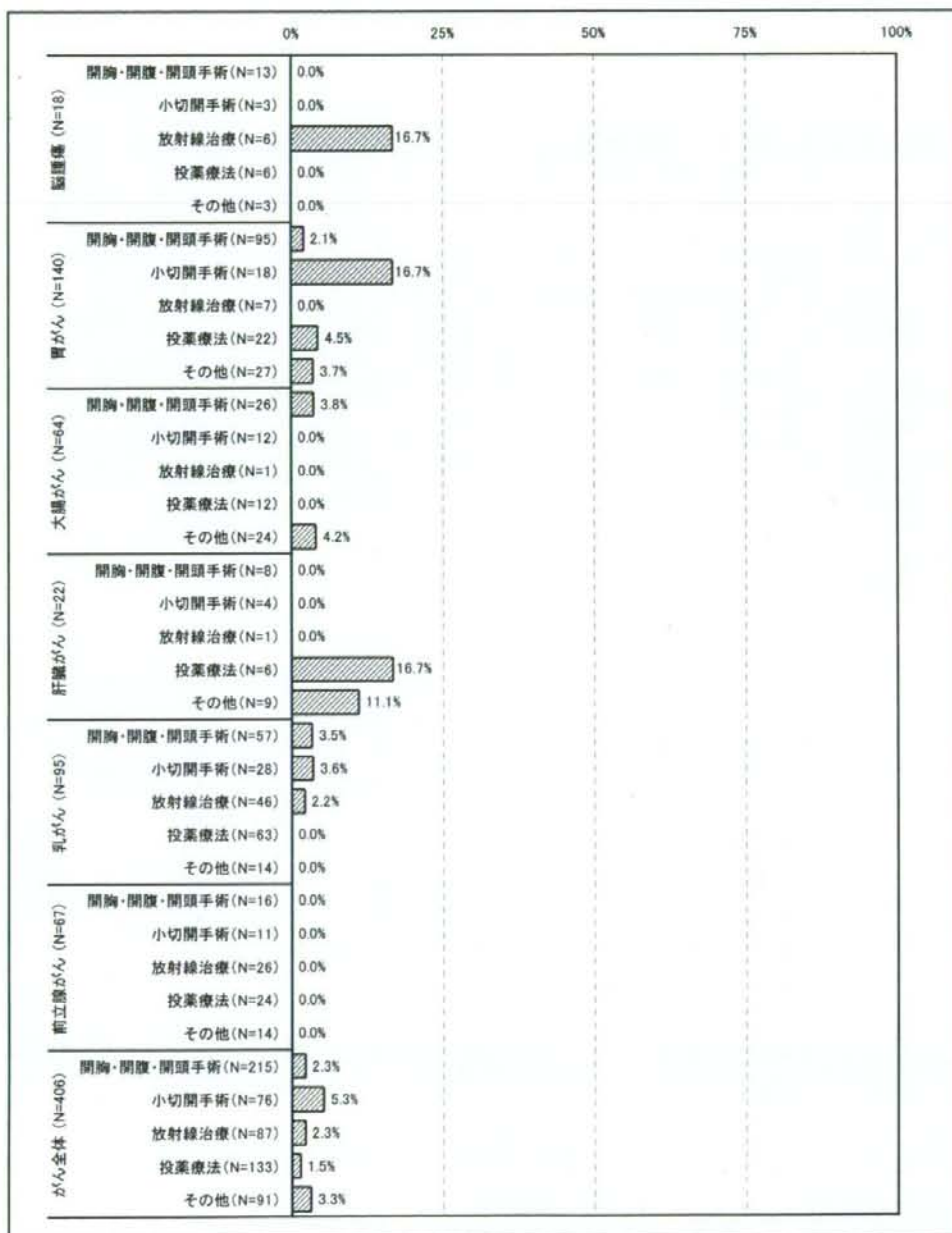


図3.3-10 「手術・処置後、病状が改善しなかった」

表3.3-31 「手術・処置後、病状が改善しなかった」

疾患名	手術・処置	手術・処置後、 病状が改善しなかった	
		件数	割合
脳腫瘍 (N=18)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=13)	0	0.0%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=3)	0	0.0%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=6)	1	16.7%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=6)	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=3)	0	0.0%
胃がん (N=140)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=95)	2	2.1%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=18)	3	16.7%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=7)	0	0.0%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=22)	1	4.5%
	その他の手術・処置 (N=27)	1	3.7%
大腸がん (N=64)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=26)	1	3.8%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=12)	0	0.0%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=1)	0	0.0%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=12)	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=24)	1	4.2%
肝臓がん (N=22)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=8)	0	0.0%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=4)	0	0.0%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=1)	0	0.0%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=6)	1	16.7%
	その他の手術・処置 (N=9)	1	11.1%
乳がん (N=95)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=57)	2	3.5%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=28)	1	3.6%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=46)	1	2.2%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=63)	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=14)	0	0.0%
前立腺がん (N=67)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=16)	0	0.0%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=11)	0	0.0%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=26)	0	0.0%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=24)	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=14)	0	0.0%
がん全体 (N=406)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=215)	5	2.3%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=76)	4	5.3%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=87)	2	2.3%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=133)	2	1.5%
	その他の手術・処置 (N=91)	3	3.3%

② 「手術・処置後、痛みが残っている」

「手術・処置後、痛みが残っている」回答者の割合は、以下のとおりである。

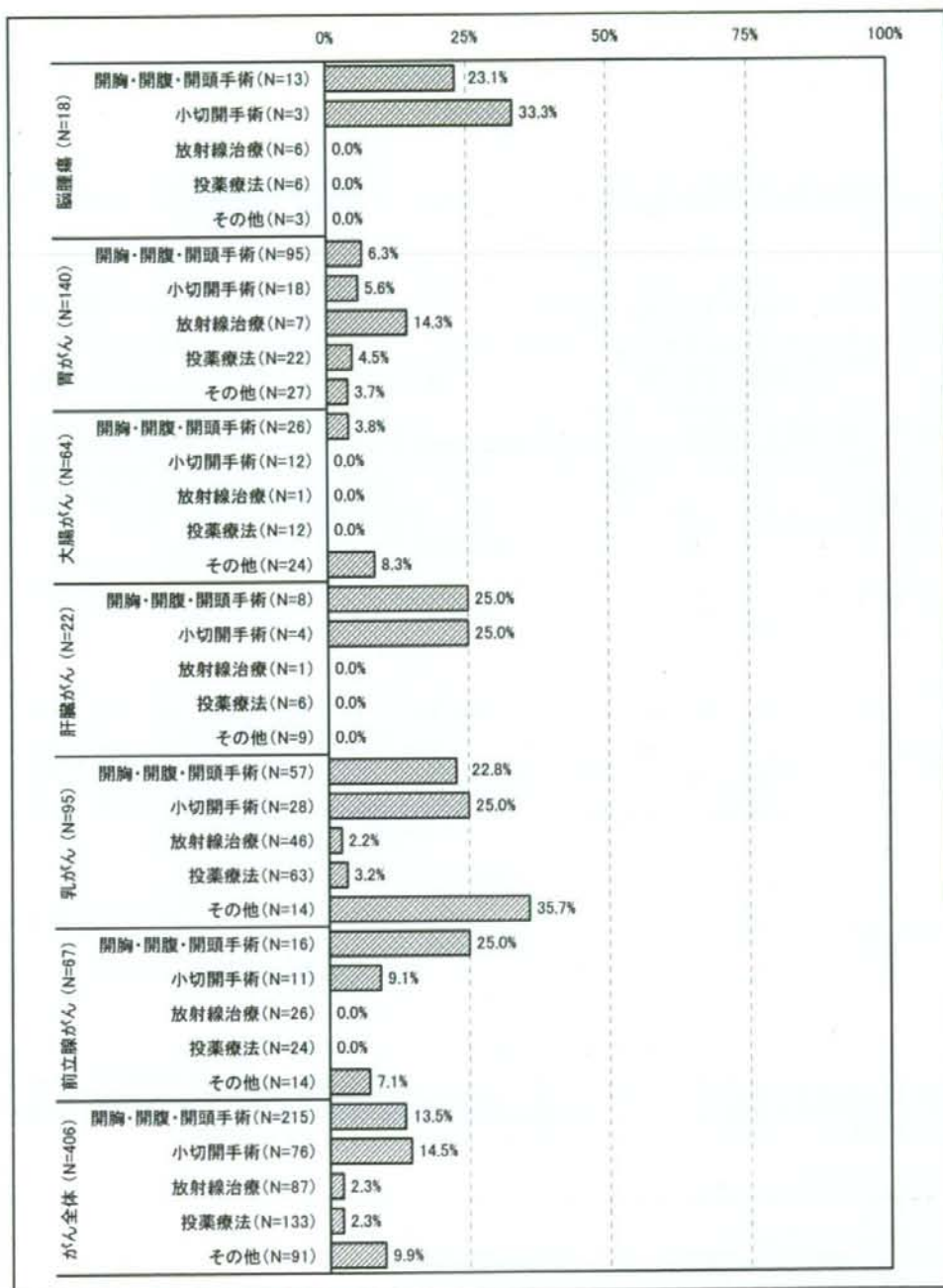


図3.3-11 「手術・処置後、痛みが残っている」

表3.3-32 「手術・処置後、痛みが残っている」

疾患名	手術・処置	手術・処置後、 痛みが残っている	
		件数	割合
脳腫瘍 (N=18)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=13)	3	23.1%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=3)	1	33.3%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=6)	0	0.0%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=6)	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=3)	0	0.0%
胃がん (N=140)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=95)	6	6.3%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=18)	1	5.6%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=7)	1	14.3%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=22)	1	4.5%
	その他の手術・処置 (N=27)	1	3.7%
大腸がん (N=64)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=26)	1	3.8%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=12)	0	0.0%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=1)	0	0.0%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=12)	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=24)	2	8.3%
肝臓がん (N=22)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=8)	2	25.0%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=4)	1	25.0%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=1)	0	0.0%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=6)	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=9)	0	0.0%
乳がん (N=95)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=57)	13	22.8%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=28)	7	25.0%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=46)	1	2.2%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=63)	2	3.2%
	その他の手術・処置 (N=14)	5	35.7%
前立腺がん (N=67)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=16)	4	25.0%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=11)	1	9.1%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=26)	0	0.0%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=24)	0	0.0%
	その他の手術・処置 (N=14)	1	7.1%
がん全体 (N=406)	開胸・開腹・開頭手術（大きな傷の手術） (N=215)	29	13.5%
	小切開手術（小さな傷の手術） (N=76)	11	14.5%
	放射線治療（リニアック、小線源治療等） (N=87)	2	2.3%
	投薬療法（化学療法を含む） (N=133)	3	2.3%
	その他の手術・処置 (N=91)	9	9.9%